道退教釧路支部会報

はくぼく

No191 2012-10-23(金)

責任者 三浦真吾

事務局 吉田朝夫

釧路市美原3丁目57-4 TEL36-7426

パークゴルフ行事ピンチ

【九月の白糠パーク中止・十月も二名で中止となる】

ここ二回のパークゴルフの参加が芳しくなく、ピンチの状態です。九月の白糠パークは、集合場所に集まったのが三名、待てども待てども集まらず、そのうち小雨が降り出して来て、天候も悪くなっ着たので、中止なりました。一〇月の釧路河畔パークも、大西さんと千葉さんの二名だけ、この日、年金者組合は別の行事が入っていたので不参加となり、二名ではどうしようもなく、中止する事になったとのことでした。高齢者にとって、最適の運動と思って毎回呼びかけていますが、ここ二・三年、参加が減少し、特に女性会員の参加が、皆無の状況になってきました。確かに年を重ねるごとに体力も減退し、気力と体力が伴なくなってきます。はくぼくを書いている私も、昨年からヒザの調子が悪く、歩くことが困難になって、パークゴルフへの参加をやめている。確かに足腰が思いどうりに行かなくなり、段々と出不精になってくるのも年のせいでしょうか。そんなこんながあってか、良かれと思っていた行事も、検討してみなければならないということでしょうか。パーク大好きだった亡き辻日出男さんも晩年は足の故障で、全くパークが出来なくなっていましたから、人間いつどうなるか分からない私たちです。日々健康には、自分で自分を管理していかないといけ名手のかも知れません。無理強いはしませんが、お互い元気な顔を見せ合う集まりとしての行事として、来年は一歩外に踏み出してみることをお願いして、今年のパーク納めとします。

囲碁・麻雀大会のご案内

今年も後二ヶ月となりました。本当に時の流れは早いものです。今年の室内行事の囲碁・麻雀の時期がやって来ました。この行事も年々参加者減少の傾向にあります。今年(二〇一二年)の最後の行事です。

元気な顔を見せてください。今年最後の踏ん張りを出して、是非ご参加下さるようご案内申し上げます。

- 期　日 十一月十七日（土）九時三〇分　集合
- 場　所 釧路全教組快感和室
- 参加費 一五〇〇円（昼食・飲み物各自持参のこと）
- 申込締切 十一月十二日（月）期日厳守
- 申込先 大西（37-2209）三浦（37-2129）吉田（36-7426）

「ふまねっと講習」失敗に終わる

十勝旅行で好評を博した「ふまねっと」の講習を初めて企画し、みんなで老化防止をと思いましたが、一〇月十七日（水）をすっかり忘れてしまい、「はくぼく」の記事を書くのに、あわてて講師の有田さんに電話して様子を窺ったら、「誰もこなかったよ」との一言、「あっ、失敗した!」と思わず叫んでしまいました。先月の「はくぼく」での案内で、一ヶ月前の事もあり、思いがけぬ選挙が入るなどして、ふまねっとの「ふ」の字も頭に浮かびませんでした。会場で講師の有田さんが、誰一人も来ず、待ちぼうけを食ってしまったとのことでした。大変迷惑をかけてしまったとお詫びしましたが、いい訳じみますが、思いがけぬ選挙で、時期が悪かったようです。有田さんには申し訳ないことをしてしまい、本当に申し訳ありませんでした。時期を改めて企画したいと思っていますが、その節は、是非、予定に入れておいて、忘れずご参加下さるよう、今からお願い致します。本当に残念でした。

釧民教一〇〇回（五〇周年）記念集会開催

すでにご案内の連絡が届いていることとは思いますが、釧民教一〇〇回記念集会が、十二月一日に開催されます。詳細は次号でお知らせしますが、是非、ご参加されて、民教活動の昔ばなしの交流をしてみて下さい。

3千万署名ただ今110筆

毎年行っている「教育予算の増額、教育費の無料化、父母負担軽減。教育条件の改善を求める請願署名」通称、三千万署名の用紙を、先月お手元にお送りしましたが、早々と積極的に取り組んでいただいた方から次々と事務局に届いています。

本日二十三日現在、十名の方から一一〇筆の署名用紙が届いています。

期間は、十一月一杯とのことです。あと一ヶ月です。ご夫婦、家族、隣近所の身近な人で結構です。日と踏ん張りお願いします。参考までに昨年は、

七二〇筆（二五名）でした。

会費の納入はお早めに

会費の納入が大分滞っています。現在、今年度の納入者は、二十三日現在で五十八名です。一二三人の会員数の五六名は、47%台で、半分にも満たしていません。お手元の振替え用紙をお探しになって至急納入下さい。些か業務に支障をきたしております。又、前年滞納者がまだ五人ほど居ります。滞納者には、振替え用紙にメモしてありますので、ご確認下さい。

又、長期未納者も居ります。本部への会費納入や、毎月の「はくぼく」の郵送にも支障をきたします。どうか事情お組取り頂き、早めに納入下さるよう、よろしくお願いいたします。

尚、振り替え用紙を紛失されましたら至急ご一報下さい。早急にお送り致します。

季節と暮らしと命と

いたましい(惜しい)東北弁に触れて

甥「達者でいたけがい」
私「お蔭さんで元気で過ごしてはいるよ」
甥「んだがー、それは何よりだっすな」
私「ところで、今年はそちらも暑かったでしょう」
甥「んだんだ、九月の暑さには参った参っただったなぁ. こんな年無かったもんなぁ. リンゴは良かったかもすんないげんとも, 人間様は、だまっていだらひっかびるような暑さだったもなすそれでも熱中症にならないですんだわ、おかげさんでー」
私「ほんとほんと、こっちも同じように参った参った毎日たったよ」
甥「この歳で野米作りだったら、ぶっ倒れてえたんでねえべかなぁ」
私「少しは涼しくなったけど、今、仕事は何してるんだろうかね」
甥「リンゴの収かく期がつかくなったさげ、袋はがしやら、入れるはごの用意などしてるとごろだちゃ。このごろ天気がいいがら、しごともはかどっているのよ。そのうちおぐるがらなっす。楽すみにまってでけらっしゃい」
私「うんうん、あり難い事だけど、あんたも八〇に届いたんだから, 引退してもいい頃でないのかい」
甥「いやいや、そうもいかないのよ。おまんまのくいあげになるしさ。跡継ぎを死なせてしまって、結局やらなぎやならない運命につきあだったと言うことだっぺちゃなぁ。んだげんともよ、リンゴ作りは難儀だげんともよ、息子のようにめんごいからさ、バサマと二人でもう少し頑張ってみっかど思ってるのさ」
私「わがるわがる。よーぐわがるげんとも、かばねだけはだいじにしてよなぁ」

(二〇一一・八・二八)

会話はまだまだ続きましたが、山形の甥には、ついつい引き込まれて訛ってしまいました。私は思いました。言葉の訛るズウズウ弁は、東北特有の風俗習慣に根差した地方語には違いないが、長くて深く培われた生活の歴史的文化であり、唯の生きていく上での道具では無い、含蓄ある生活文化として、これからも大事にしなければならないのではないかと。

※菊地さんから、過日、掲載のような、詩文が届きました。相変わらずの健筆で、脳裏は益々冴え渡っているようです。あと一枚ありますが、次号に掲載致します。

菊地義夫

私の言い分

人間の寿命は決まっていない
それなのに
歳を取ると誰もが「お向かい」を
気にし出す

人間誰もが思わぬ病につきまとわれる
それなのに
日頃からの備えに怠る事が多い
そして　病に襲われるとあわてる
そして　傷心し悔いることも多くなる
そして新たな病を起こしかねないのだ

人間の生き方には様々な歩み方がある.
健常者の歩み　一人で暮らす人の歩み
はた又
生活困窮者と言われる人々の難儀な歩み
とりわけ
身体に　そして心にも
障害を負って歩む人々
だからこそ
寿命と言う名の時がくるまで
生きとし生きるものとして
見えない赤い糸を紡ぎながら結び合う
その糸こそ
人間讃歌の赤い糸

この世に生をうけて
本性となって生きる　赤い糸
誰もが　その命の根源を蘇らせよう
途中で
自らの命を断つ人を生まないためにも

二(二〇一・八・二八)